

## 第2節 調査対象者の属性

この節では、調査対象少年の家族の状況や所持品、また、警察官に対して抱いているイメージについて述べる。

### 1 家庭の状況

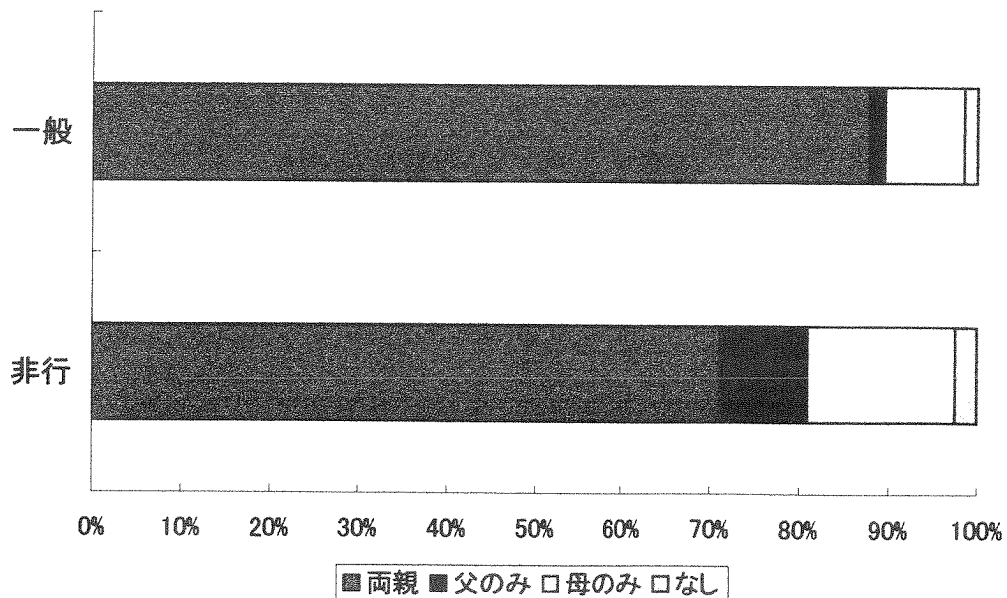
#### (1) 同居家族

両親との同居の状況は、図1-1に示すとおりである。

両親と同居していると答えている者は、一般群の少年が87.9%、非行群の少年が71.3%であった。父親のみと同居していると答えた者は、一般群が1.7%、非行群9.7%で、母親のみと同居している者（一般群；9.0%、非行群；16.6%）に比べ少ない。

また、兄弟と同居している者は一般群・非行群ともに約8割、祖父母あるいはいはいずれかどちらかと同居している者は約3割であった。

図1-1 現在一緒に住んでいる(父母)



(2) 両親の就労状況

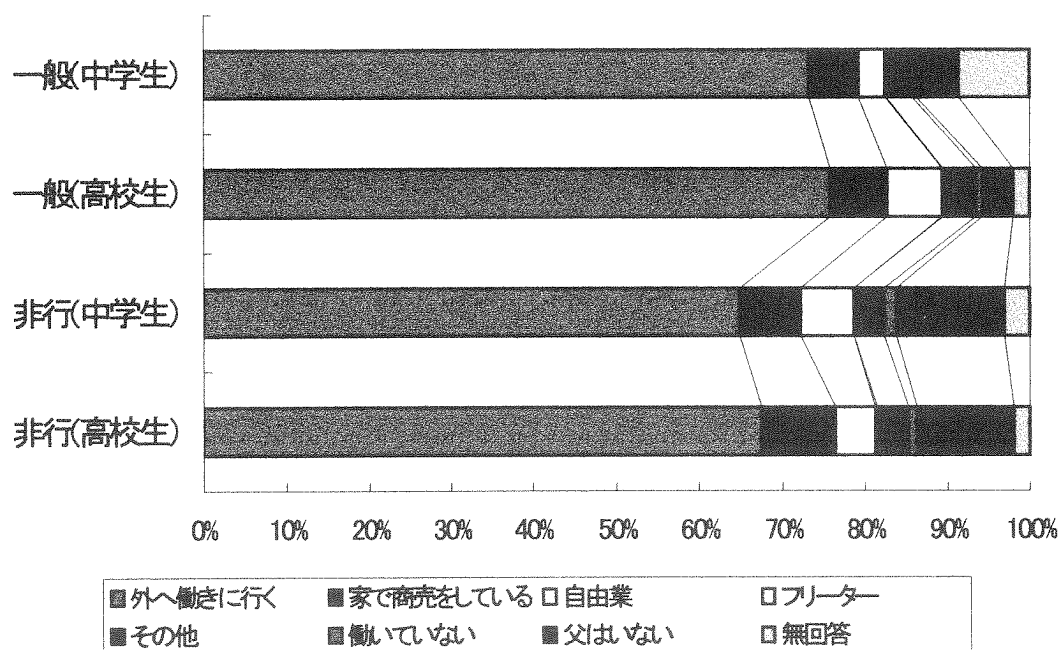
両親の就労状況について、以下に示す選択肢から1つを選択するよう求めた。

- ・ 外へ働きに行く
- ・ 家で商売をしている
- ・ 自由業
- ・ フリーター
- ・ その他
- ・ 働いていない
- ・ 父はいない

父親の就労状況についての、回答結果は図1-2に示すとおりである。無回答は一般群の中学生が8.7%、高校生が2.0%、非行群の中学生が3.1%、高校生が1.9%いた。父親がいないと回答している者は、非行(中学生)で約13%、非行(高校生)が約11%、一般(中学生)が約5%、一般(高校生)が約4%である。

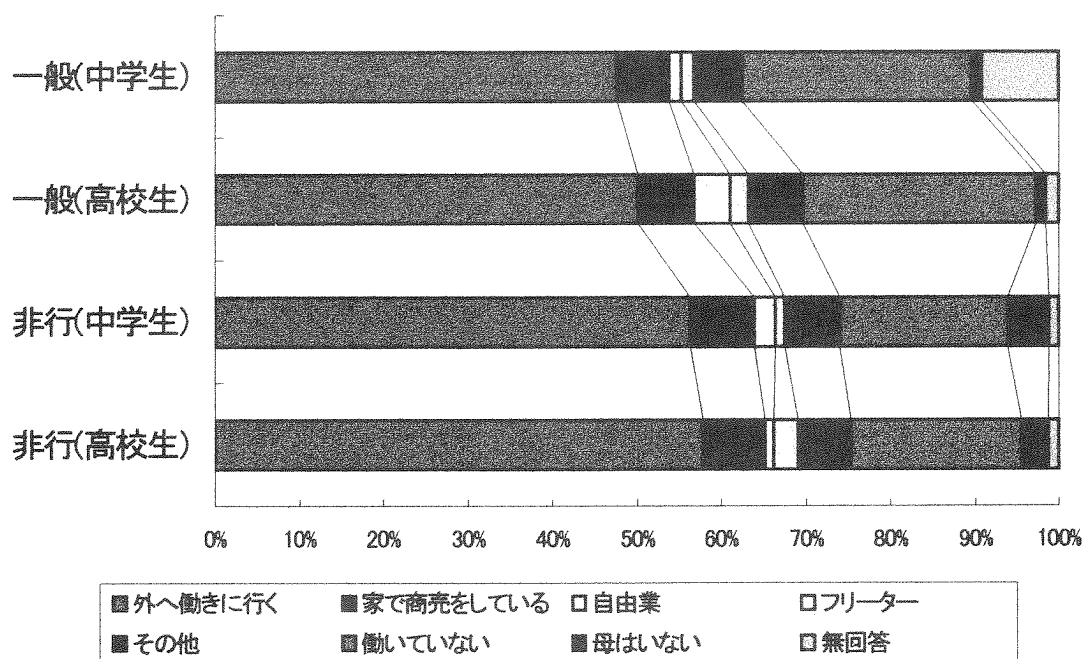
最も多いのは、どの群とも「外へ働きに行く」であるが、一般群の中学生(73.2%)高校生(75.7%)に対して、非行群の中学生が64.8%、高校生が67.4%であり、約1割弱の違いがある。

図1-2 父親の就労



次いで、母親の就労状態について見てみよう。結果は図1-3に示すとおりである。無回答は、一般群(中学生)が一番多く9.2%で、他の群は1%台であった。母はいないと答えた者は、一般群の中学生・高校生がともに1%台であるのに対し、非行群の中学生が4.9%、高校生が3.2%いる。「働いていない」母親は、一般群の中学生・高校生が約27%であるのに対し、非行群の中学生・高校生ともに約20%であった。

図1-3 母親の就労



## 2 所持品

現代は「消費文化」と言われて久しい。少年も種々の品物を所持するようになったが、ここでは以下に示す品物の所有の有無を尋ねた。

- ・ 自分が自由に使えるビデオデッキ (ビデオデッキ)
- ・ ポケベル
- ・ 携帯電話・PHS (携帯電話等)
- ・ 高価なブランドのバッグや服・アクセサリー等 (ブランド品)
- ・ オートバイ
- ・ パソコン
- ・ ファミコンなどのテレビゲーム機本体 (テレビゲーム機)